

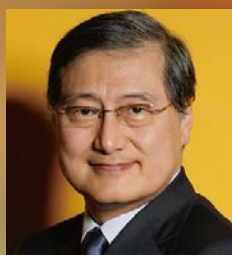
ランチョンセミナー 12

コラーゲン・エラスチンペプチド 摂取による効果と その活性成分 ～Pro-HypとPro-Gly～

日時

11月21日(土)～22日(日) 会場：第4会場

※会期中の繰り返し配信となります。



座長

山田 秀和 先生

近畿大学アンチエイジングセンター
副センター長
近畿大学奈良病院皮膚科 教授



演者

佐藤 健司 先生

京都大学大学院農学研究科 教授

平成 元年 4月 京都府立大学生生活科学部 助手
平成 7年 10月 京都府立大学生生活科学部 助教授
平成 17年 4月 京都府立大学人間環境学部 教授
平成 26年 4月 京都大学大学院農学研究科 教授 現在に至る

コラーゲン・エラスチンペプチドの摂取で皮膚の弾力の増加、皮膚バリア機能の向上などの有益な作用が示されている。また褥瘡の治癒が促進されることも報告されている。本報ではコラーゲン、エラスチンペプチド摂取による有益な作用のメカニズムを説明する。経口摂取したペプチドはアミノ酸に分解されると考えられていたが、コラーゲンペプチド摂取後にはPro-Hyp、エラスチンペプチドの摂取でPro-Glyなどのジペプチドとして吸収されることが明らかとなった。線維芽細胞は創傷部位で増殖し細胞外マトリックス成分を分泌して真皮層を再建する。しかし、線維芽細胞はFBSの存在下でもコラーゲングルに接着した状態では増殖が止まることが知られ、創傷治癒部位でコラーゲン線維に囲まれた線維芽細胞がなぜ増殖できるのか不明であった。Pro-Hypはコラーゲングルに接着した間葉系幹細胞マーカー(p75NTR) 陽性線維芽細胞に取り込まれ増殖を促進することが明らかになった。一方、増殖を繰り返してp75NTRを失った線維芽細胞には作用しなかった。p75NTR陽性線維芽細胞は創傷部位に多く分布するため、創傷組織で線維芽細胞を増殖させていると考えられる。